



# 安寧

兵庫縣姫路護國神社報  
 「安寧」第十八号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
〒670-0003 姫路市本町一八  
 電話 〇七九-三四一〇八九六  
 安寧あんねい：世の中が穏やかで平和なとこ

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

## 英霊の言乃葉

### 遺書

陸軍伍長 清水誠藏 命

昭和十八年一月十六日  
 ガダルカナル島セキロ河東方にて戦死  
 ※7ページに地図記載  
 静岡県志太郡島田町出身 二十四歳

お母さん、最後の書をしたためます。

入営前及び入営後の今日に至るまで、何等孝行らしい事も出来得ず、御世話になるばかりでした。

あの歴史的香港攻略戦には、途中矢つき病魔に倒れた日本男子として、又日本軍人として此の上

もなきはづかしき事と、病院の寝台の上にて涙にぬれて眠れない夜も数日続きました。

スマトラ攻略を終へ、将<sup>はたま</sup>又香港の汚名をそぐべき最後の御奉公する時節到来。

靖國神社にて対面出来る事も、遠からぬ事と思ひます。

父亡く、又私死した後はさぞ大変な事と思ひます。何卒宜敷く御願ひ致します。

此れだけ書けばもう言ふ事はありません。喜んで死んで行つたと、弟妹等にも言つて下さい。

では、今度靖國神社にての再会楽しみに待つて居ります。

母上様

誠藏



# 平成二十九年 度 春季慰霊大祭 厳かに斎行

(五月二日午前十時三十分)



大祭参列者

本年も晴天に恵まれ、五月晴れの中、緑豊かな境内に六百五十名が参列した。ご遺族、崇敬奉賛会をはじめ、自衛隊駐屯地司令、地域事務所長、県会議員、市会議員、自治体では町長、町議会議長有志、兵庫県神社庁からは垣田副庁長が参列した。受付は早朝から姫路郷友会、隊友会の方々が奉仕された。

定刻通り号鼓、斎館玄関から宮司以下祭員、大祭委員長以下特別参列者が、関西雅楽松風会による雅楽の奏でられる中、本殿に向かつて参進した。本殿に拝礼後、姫路市民合唱団先導により、国歌斉唱され、修祓に続いて海川山野の神饌が供えられ、また、淡交会西播磨支部幹事長をはじめ、支部有志により抹茶とお菓子が

本殿にせずと運ばれ神職の手によつて外陣内に供えられた。

静寂の中、宮司が英霊感謝の祝詞を奏上した。祭文は、大祭委員長、崇敬奉賛会長が心を込めて奏上、神賑行事の、福田賀穂陽、北村鯉杏、富士原浩山各氏により、詩吟、尺八、舞の奉納、続いて姫路市民合唱団の「春の小川」「くちなし」の歌が神前で合唱された。そのうち順次玉串を奉奠し、御霊の平安を祈つた。

祭典ののちは、来賓役員百名余で、直会が会館二か所で行われた。また、境内南テントでは霊友会の方々のコーヒーなどの接待があつた。

## 崇敬奉賛会会員 安泰祈願祭及び総会開催

(四月十七日午前十一時)



崇敬奉賛会総会

まず本殿で会員安泰祈願祭を斎行、三宅会長が、会員の安泰と崇敬奉賛会の発展を祈つて役員とともに参拝、代表して玉串を捧げた。続いて参集殿二階に場所を移動して総会を開催した。総会の司会は大川久夫氏が開会を宣言した。

続いて議事に入り、会則に則つて会長が議長に選任され、二十八年度の事業、会計報告を三木運営委員長、監査報告が本庄監事によつてなされ全会一致で承認された。次に平成二十九年事業計画予算案が審議されこれも全会一致で承認された。迎山常任理事によつて閉会が宣言された。

続いて暫時休憩ののち、阿比野運営委員の司会で直会が進められた。福本常任理事乾杯の後、中盤では三木運営委員長の音頭で様々な感想や意見が述べられた。にぎやかなうちにも三枝常任理事によつて閉会の言葉が述べられ、今後の崇敬奉賛会の活発化を全員で誓つた。

### 〈平成二十八年 度事業報告〉

兵庫縣姫路護國神社の創祀の意義を広く伝え、世代を超えて英霊に感謝と報恩の誠を捧げる祭礼の永続に尽くすため、奉賛会を設立した。

今日の荒廃した精神状況に対しても、英霊の克己・献身の事跡とその精神を知らしめることが、生命の尊厳への認識と父祖の世代への感謝の心を醸成し、我が国の伝統的道義・道徳心を取り戻す教育的役割を果たすものであると確信する。本年は、目的達成のため次の事業を行った。

一、総会を四月二十日に執行した。

### 〈平成二十八年 度 決算報告〉

(収入の部) 平成28年4月1日～平成29年3月31日

予算項目	決算額	内 容
繰越金	3,491,561	
会費収入	2,174,000	法人22口110万 個人238口71万4千 終身会員4口20万 賛助会員16口16万
雑収入	355,530	新年祈願祭参加費(5000*62名31万円) 加藤氏講演会(4万5,500円)受取利息30円
収入合計	6,021,091	

支出項目	決算額	内 容
神社奉納金	700,000	神社奉納金
事業費	1,152,467	社報発行及び発送(安寧15～16号)54万7,474円 英霊感謝祭・戦士の証言講演会11万8,472円、新年祈願祭 39万8,521円 会員助産しり作成8万8,000円
事務費	100,000	崇敬奉賛会運営事務費 神社会計へ繰り入れ
会議費	321,107	総会、運営委員会9回
雑費	73,440	振替手数料、残高証明書、IB基本料
予備費	0	
次年度へ繰越金	3,674,077	
支出合計	6,021,091	

- 二、会員増強に努め、法人会員二十二口、個人会員二百三十八口、終身会員四口、賛助会員十六口であった。
- 三、社報を二回各五千部十五、十六号を発行した。
- 四、春秋大祭に協賛し、会長による祭文を奏上し、会員多数参列した。
- 五、終戦の日に英霊感謝の集いを執行し、「英霊の言乃葉」朗読、自衛官ラッパ手による奉奏、元ブルーインパルスパイロットの講演、正午の黙祷などを実施し百五十名の参加者を得た。
- 六、新年祈願祭を一月九日に執行し六十二名の参加者を得てご皇室の弥栄と国家国民の安寧、会員の安泰を祈願した。
- 七、十一月三日にレイテ沖海戦に参戦生還された加藤昇氏を招き第六回「戦士の証言」講演会を開催し、九十一名の参加者を得た。
- 八、運営委員会を第四十九回から第五十七回まで九回開催し、崇敬奉賛会の催しの企画、社報の編集、会員増強の方策等を議論し実行した。



第七回 戦士の証言

日本人はどうしてこんなに

だらしくなってきたのか

海軍上等飛行兵曹 大野徳兵衛氏



平成二十九年六月三日、崇敬奉賛会による第七回「戦士の証言」講演会を開催。加西市在住で艦上爆撃機「彗星」のパイロットであった大野徳兵衛氏が二時間にわたり、約百名の前で自身の戦争体験を語った。

大野氏は大正十五年生まれの九十一歳。武庫郡西灘村（現、神戸市灘区）に生まれ、旧制六甲中学校に入学した後、第十一期海軍甲種飛行予科練習生として三重海軍航空隊に進んだ。予科練の試験最終日に初めて飛行機に乗ったが、そのとき「こんな怖いものに志願した」と反省したという。三重では基礎教育を受け、鈴鹿海軍航空隊では飛行技術を叩き込まれた。その後、徳島海軍航空隊へ転隊し、三ヶ月の教員生活を送った。

昭和十九年五月、大野氏は第六三四海軍航空隊（山口県岩国）に転隊。航空隊に向かう道中、爆音とともに飛び去ったのが艦上爆撃機「彗星」だった。高度六千メートルから急降下していく様子を立ち止まって見上げていたという。「彗星」との出会いに、大野氏は興奮したと同時にこれからの訓練の厳しさを感じた。艦上爆撃機は急降下爆撃が専門で、「飛行機乗りとしては最も過酷な機種であり、敵艦への攻撃で戦果を挙げているため、ほとんど生存者がいない」と語った。訓練では最初、九九式艦上爆撃機を操縦し、一月月以上かけて降下する角度を上げていきながら、G（重力加速度）に耐える訓練を続けた。急降下時には4Gから5Gが体にかかることから、慣れるまで時間がかかった。その後「彗星」に乗ったが故障に悩まされたという。一週間に一機は事故で墜落し、戦地に行くまでに何十人も搭乗員が亡くなった。

十月下旬、フィリピンのマバラカット（マニラから北へ八十キロ）に移動。大野氏は当時の心境を「死ぬことは悲壮と思わなかったが、内地に帰るときは嬉しかった。新しい飛行機を受け取り、再び戦地に向かうときは今度こそ駄目だ」と語った。

十二月初め、五百キロ爆弾を輸送中にエンジン不調で不時着した。偶然にも田んぼに着地し、機体は止まったが、十メートルもの火柱が上がった。爆弾が火災で破裂すると思い、とっさに大野氏は機体から離れ、水たまりに飛び込んだが、爆発しなかった。翌日現場を確認したところ、爆弾は着地の際に機体から離れた土の中に埋まっていた。さらに針が雷管の横を突いていたため破裂せず、「万に一の奇跡」で助かったのだという。その後、内地から「彗星」が届き、大野氏は特攻命令を受けた。「いよいよ来るべき時がきた。しかし覚悟はできていた」と大野氏はいふ。天候不良のため機体を列線に並べ、待っていたところ、米軍の爆撃を受け、すべての飛行機が燃やされた。どの隊員も半日、無言であった。十二月の半ば、レイテ沖に突入。このとき大野氏は敵艦の輪形陣の大きさに驚いた。その中にアメリカだけでなく、ノルウエーやデンマークの船舶があり、「全世界を相手に戦っているのだと思いつた」という。このとき、敵機にしっかりと追いかければ、タンクや後方に被弾し、帰る燃料もなく川の砂地に不時着。敵地であったため、飛行機を燃やし夜になるのを待った。そのとき、日本語が聞こえ陸軍兵に助けられた。



講演中の大野氏

マンの攻撃を受け、大野氏の機体にも五六発被弾したが、最終的に帰ってきたのは大野氏だけであった。その後、ミンダナオ島のダバオに集結せよとの電報があった。このとき大野氏はデング熱を発症し、遅れて向かうことになった。他の搭乗員たちは九六陸攻に先に乗っ込んだものの、離陸に失敗、炎上し亡くなった。大野氏はデング熱に助けられた。

昭和二十年八月二十日、大野氏は終戦を知り、オーストラリア軍により武装解除された。ボルネオ島の収容所に入り、ひどい食事で生きているのがやっとであったという。黒水熱にかかっていたが、幸いにして回復し、昭和二十一年六月に復員した。

講演の後半は、「戦後日本の歩んできた道」と題して、GHQの言論統制により日本軍の行為が歪曲されて伝えられていると話す一方、日本の技術力の素晴らしさや日本人の道徳性についても話した。声を詰まらせながら、「日本に生まれたことを誇りに思う。豊かな日本の平和を祈りつつ」と結んだ。

（文責） 兵庫縣姫路護國神社 崇敬奉賛会理事 深田 真史

# 8月15日 英靈感謝祭 英靈顕彰の集い



自衛隊によるラッパ演奏



みたまなごめの舞

七十二回目の終戦記念日を迎えた八月十五日、兵庫縣姫路護國神社にて、恒例となった「英靈感謝祭、英靈顕彰の集い」が崇敬奉賛会主催で行われた。午前十時より本殿にて多くの参拝者が参列し、厳肅に英靈感謝祭が執り行われた。泉和慶宮司の祝詞には、戦火に斃れた英霊への感謝と平和な日本への誓いが込められ、続いて巫女による息の揃った見事な「みたまなごめの舞」が奉納された。代表者の玉串奉奠に合わせ、参拝者一同で英霊に感謝の祈りを捧げ、英霊



子ども紙芝居

感謝祭は厳かなうちに斎行された。祭典後、参集殿において「英靈顕彰の集い」が開催された、今年も、誰もが会場に自由に入出りできる展示をコンセプトに崇敬奉賛会の会員を中心にプログラムが組まれ、午前中には「英霊の言乃葉」の朗読、また、小さなお子さんにも楽しんでもらえるよう子ども向けの紙芝居が上映された。題材は「泣いた赤鬼」と「九番目の戦車」子ども向けの内容ではあったが、大人の方からも好評をいただき、お子さんからのアンケート





清瀬一郎と東京裁判展

にも感動した旨の意見をいただきました。会場の一部には、崇敬奉賛会員が映画「太平洋の地獄」のシーンを描いた絵画や紙芝居で上映された「九番目の戦車」のジオラマ等が展示され、参加者それぞれに展示物を見たり、プログラムを楽しんでいた。

正午が近づくと、参加者はそれぞれに境内へと移動し、本殿前にて、日本武道館で行われていた「全国戦没者追悼式」の式次第に合わせ、内

閣総理大臣の式辞、黙祷、そして、天皇陛下のお言葉を拝聴した。また、黙祷に合わせ、陸上自衛隊の皆さんにより「国の鎮め」のラッパ吹奏が奉納された。引き続き、陸上自衛隊の皆さんによる、ラッパ吹奏も行われ、日ごろ自衛隊の生活の中で使われる「起床、点呼、食事、気をつけ、君が代、休め、課業開始、修了、消灯」それぞれの曲をご披露いただいた。

その後、昼休憩となり、境内では有志により、冷やしうどん、いなりずし、かき氷が振る舞われ、暑い日差しの中、多くの方々が境内のあちこちで涼をとる姿が見られた。

英霊顕彰の集いは午後の部へと入り、泉宮司による護國神社のお話があり、続いて「英霊の言乃葉」の朗読が行われた。家族や恋人、そして未来の我々へ向けて綴られた六篇を、青年会員が心を込めて朗読すると会場からは、すすり泣く声や涙を拭う姿も見られた。

その後、「もう一つのガダルカナル島」ある日本兵の孤独」の朗読劇があり、崇敬奉賛会会員による解説を交えながら、大東亜戦争の数ある戦いの中でも激戦と言われたガダル

カナル島の戦史を紐解くとその内容に多くの方がそれぞれ感銘を受けられ、様々な感想をいただきました。

また、今年は極東国際軍事裁判（東京裁判）の日本人弁護団副団長を務めた、東條英機元首相の主任弁護人を務めた、姫路市夢前町出身の清瀬一郎氏の没後五十年を記念し「清瀬一郎と東京裁判展」と題し、特別展示を参集殿一階にて開催したところ、多くの観覧者が詰めかけ、数々の貴重な資料と故人の足跡を解説した展示物に足を止め、じっと見入る姿がみられた。今回の展示を機に初めて清瀬一郎という人物に触れた方もあれば、認識を新たにされた方もいらっしゃった。これからも少しずつ資料を収集、精査し、あらゆる機会に郷土の偉人を顕彰する機会に繋げたい。



清瀬一郎と東京裁判展

英霊顕彰の集いの最後は恒例となった「日本を唱う」。尼子美保さんのピアノ、前川美加さんのバイオリン、それぞれの伴奏と金澤俊典さんの歌声に乗せて、映画「永遠のゼロ」の主題歌である「蜩」や「千の風になつて」といった最近のヒット曲を聴いた後、「椰子の実」「愛国行進曲」「海ゆかば」といった、戦前、戦中に愛

唱歌として知られながら、戦後、歌われなくなってしまう美しい歌曲を全員で合唱した。年配の参加者は懐かしそうに、若い世代も初めて聞くメロディーに戸惑いながらも、周りに押されるように歌われていたのが印象深く、失われつつある軍歌、唱歌、童謡をこうした機会に世代を超えて受け継がれる良い機会となることを実感した。

今年も、暑い中、のべ三百人ほどの方に参加いただけた。今後も、多くの皆さんの協力を得て、この英霊感謝祭を続け、ご英霊の顕彰について、たくさんの方々の賛同を得られるよう活動していきたい。

(文責 崇敬奉賛会員 戸井田真太郎)

## シリーズ 英霊の戦場(九)

## ガダルカナル島攻防戦

ガダルカナル島(以下ガ島)を日本軍は何故攻めし、又米軍の反攻拠点となつて悲惨な戦場と化してしまつたのかを紹介し、ガ島攻防戦には数次の海戦が行われたが、ここでは陸上戦闘の内、姫路護國神社に祀られている中で最も多くのご英霊が所属した独立速射砲第六大隊について記述する。

## ガ島攻略作戦の意図(挿図参照)

海軍は米豪遮断を図る為、ツラギ島を攻略し水上機基地を建設したが、水上戦闘機・偵察機や飛行艇だけでは戦力にならないと判断し、ガ島に飛行場適地を発見、昭和十七年七月一日から滑走路建設に取り掛かった。然し、七月初旬には米軍機に見えられた。

## 米軍の対日反攻としてのガ島作戦

米軍は反撃の矛先を七月二日南太平洋に決定し、八月七日飛行場完成間近のガ島と水上機基地ツラギを海兵隊一箇師団で攻略、陸上部隊の少ない日本軍は抵抗する暇もなく敗退、その後、海軍の要請により奪回作戦が発令され、初めて陸海軍が協力して作戦を発動した。

## 日本軍反撃の概要

奪回を担当する第十七軍(百武晴吉中将)に戦力増強が発令されるも米軍を甘く見た攻撃は次々と失敗、其の上、制空権を失つたため、増援や補給を担

当する艦隊や輸送船が撃沈される等、上陸した将兵は戦闘死よりも大半が飢餓と病に侵されて斃れていった。ガ島が「餓島」となる。

## 独立速射砲第六大隊の戦闘概要

大隊長 森玉中佐(兵員三百五十二名)

※大隊の戦闘記録も生還者の手記も残っていない。その為、所属した部隊の戦闘記録から行動を共にした山砲・迫撃砲部隊及び歩兵部隊の戦闘状況から推察して記述する。ガ島には独立速射砲はこの他に第二大隊や第八・第九中隊が派遣されている。「独立」名称の通り、大隊は対戦車戦闘能力が無いか又は不十分な戦闘部隊に次々と配属替えされて戦った。

昭和十七年九月十七日 ガ島増援の第三十八師団に配属され、ラバウルに集結。

十月十五日 ガ島上陸に成功。(地図①)(以下同じ)

十月二十日 反撃主力の第二師団直轄部隊に編入、米軍を南方から襲撃する迂回作戦は密林と山岳地帯を人力で切り開き乍ら(地図の丸山道)の隠密行軍であった。大隊は火砲を分解し弾薬を背負い兵士は励まし合いながら耐えたが体力を著しく消耗させた。その上、海軍と協定した攻撃日時に遅れ艦砲射撃の支援が受けられないまま、陸軍のみで攻撃を実施②

十月二十四日 第一回夜間攻撃の右翼隊(川口部隊)に第一中隊が夜襲成功後の米軍反撃を予想して配属された。自軍や米軍陣地の位置が不明のまま夜襲を決行、戦線錯綜の上、目標地点を間違え、所在が米軍に察知され、左翼隊共、激しい砲爆撃を受け不成功に終わる。右翼隊は川口少将罷免後、東海林(大佐)支隊となる。

十月二十五日 師団は第二回夜間攻撃を実施したが、再び大損害を受け失敗。② 攻撃中止命令により

撤退、六大隊(一中隊欠)は出撃する機会も無く火砲・弾薬を背負い、病と飢餓に悩まされながら集結地④に到着。

尚、右翼隊は米軍陣地を東西から挟撃する作戦に移行する為、コリ岬③に進出を命ぜられ第一中隊が配属、以下同中隊が收容されるまで記述する。

十一月二日 岬に到達、作戦成功の要である海上補給は大半が不成功となり、米軍の砲爆撃や地上戦闘で損害が累積、山砲部隊は全滅、野砲・迫撃砲部隊は全弾撃ち尽くして火砲を処分十一月十二日撤退が発令、一中隊は全弾発射し火砲を処分(推定)飢餓と闘いながら十一月二十四日第二師団主陣地に收容された。⑥

十一月八日 三十八歩兵旅団(伊東支隊)に配属クルツ岬⑤西側で米軍の攻勢を阻止、激しい砲爆撃で大隊からも損害が急増、対戦車戦闘の記録は無い、他部隊の状況から十二日には人的戦力は半減(推定)この日、第十七軍は持久作戦移行を発令

十一月十七日 米軍攻勢再開。日本軍苦戦するも陣地を固守、米軍は戦車を投入するが六大隊の対戦車戦闘の記録なし⑥ 尚、独立速射砲第二大隊は①地点で山岳部から侵入した戦車に対戦車戦闘を行つて突入を阻止したが全滅に近い損害を受け戦闘力を失う。

東部ニューギニアとソロモン諸島の作戦統括を行う第八方面軍(今村均中将)が新設、第十七軍を統帥。

十二月十二日から米軍は攻勢活発化。敵の砲爆撃で歩兵と共に山砲・迫撃砲部隊も日々戦死傷が続出する事態となる。

大隊は対戦車戦闘力を維持するも火砲4〜5門程度に減少(戦闘に堪えられる兵士が三割程度の師団報告から大隊は約九〇名と推定)⑥

十二月三十一日 御前会議でガ島撤退が決定十八年一月 米軍の攻撃を陣内に誘い込み、接近戦で撃退を繰り返す。六大隊は戦車の突進を阻止する



要点に配置されるも参戦の機会なし。対戦車戦は海岸線で発生、他の部隊が応戦し、突入を阻止した。  
 一月二十四日頃 撤収掩護部隊の矢野大隊は、激しい攻防戦に耐え陣地を確保、大隊も損害大であったが対戦車戦闘力を維持し矢野大隊に貢献。兵力二割(傷病兵含む約七〇名と推定)。敵戦車の突入阻止は撤収成功の要と、任務維持を決意(推定)。タサフアロング①からカミンボ⑦間は戦車道が無く米軍はこれ以降攻勢が慎重になる。迫撃砲部隊は米軍の海岸沿い攻撃と舟艇上陸行動阻止の為、陣地を移動しつつ後退、六大隊も同一行動を採ったと思われる(推定)。

同年二月一日 第一次撤収乗船 約四五〇〇名  
 二月四日 第二次撤収乗船 約三四〇〇名  
 二大隊・六大隊共撤収乗船を予定されていたが対戦車戦闘力失った二大隊は乗船した。六大隊は撤収成功に寄与するため海岸の守りに就き、乗船せず

二月七日 第三次撤収乗船(最終) 集結した将兵(二七三三名)は全員撤収に成功(二十二時)した。その時に迫撃砲部隊と共に六大隊は大半が乗船に辛うじて間に合ったものの一部が残置となる。⑦結果として大隊は対戦車戦闘の機会が無く、気力で最後まで戦闘能力を保持したことで生存者全員を撤収出来なかった。撤収作戦に寄与した功績についての評価は記録に無いが、最後まで敢闘精神を維持した。日本軍は諸団作戦等陸海軍総力をもって米軍の戦術判断を誤らせ、計画通りの人員撤収に成功した。

然し、六大隊兵士を含む多くの将兵が残置されており、自決や投降した兵士の他、戦後まで飢餓や敗残兵狩り米軍と戦い続け、多くが戦死か餓死した。昭和二十二年十月に残留日本兵数名が投降(投降者が六大隊兵士の記録は無い。)  
 ガ島占領後、米軍は反攻作戦の兵站基地として利用した。

ガ島日米損害状況(名)

上陸人員	戦病死(内餓死者推定)	生還者
日本軍 三三二四五	二三四九三(一五〇〇〇)	一〇六五二
米軍 五〇〇七八	戦死一五九八	負傷四七〇九

姫路護國神社に祀られているご英霊数 百五十五柱

内独立速射砲第六大隊のご英霊数 五十四柱

上陸部隊は力戦敢闘するも餓死・病死が大半を占め、遺骨は無念の戦場に今も多く残されて居ます

ガ島撤退直後ご英霊への懺悔として、第八方面軍司令官(今村均中将)と第十七軍司令官(百武晴吉中将)の対話(抜粋)を記す。

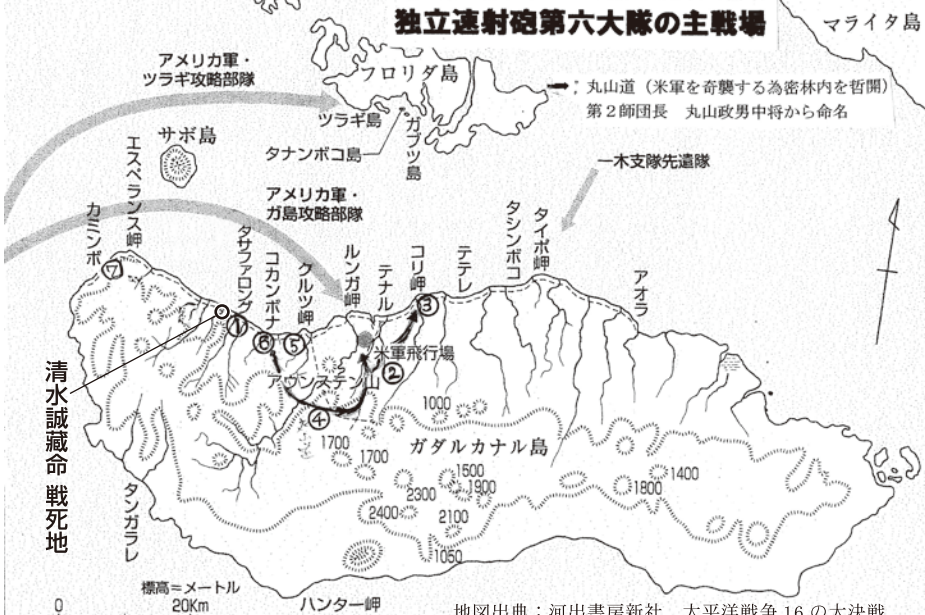


「部下の三分の二を斃し、しかも目的を達しない。このような戦いは我が国の歴史にないことです。私がガ島で自決せず此処に收容されましたのは、一に生存者の三分の一、一万人の運命を見届けるのが義務であり、責任であると思つたためです。」(百武晴吉中将)



「お気持ちはよくわかります。自決して罪を詫びることも意義があります。自決はいつでもできます。ガ島で戦死した、しかも餓死した一万五千人の英霊のために、どうしてそんなことになったのかの顛末を、詳しく記述して後世の反省に役立たせることはあなたの義務です。二度と再びかような無謀の過失を繰返ささ

独立速射砲第六大隊の主戦場



めないためにも、比の百日間の実際を書き残しておかなければなりません。」(今村均中将) ここまで言及したとき百武中将の目から涙が溢れてきた。

出典 防衛省戦史叢書(米軍公刊戦史含む) 「私記、一軍人六十年の哀歓」 今村 均著  
 (文責 兵庫縣姫路護國神社 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎)

# 日誌抄

二十九年三月、  
二十九年八月

平成二十九年

- 三月二十三日 神社総代会
- 三月二十四日 兵庫縣神社庁協議会
- 三月二十五日 左内久崎慰霊祭
- 三月二十六日 夕久ヶ丘宿禰祭
- 三月二十七日 京浜兩神社庁関係者大会出向
- 三月二十八日 山口県平県議政報告会にて参司講演
- 三月二十九日 奉敬奉賛会連発委員会
- 四月一日 兵庫縣神宮總会出向
- 四月二日 兵庫縣神宮總会出向
- 四月三日 奉敬奉賛会総会出向
- 四月四日 姫路總友会出席
- 四月五日 生田神社例祭参列
- 四月六日 奉敬奉賛会祈願祭及び総会
- 四月七日 姫路市道族会総会
- 四月八日 神社本庁役員会出向
- 四月九日 隊友会姫路支部総会・近畿神社庁連絡会
- 四月十日 兵庫縣神社庁姫路支部馬屋建立祭
- 四月十一日 城東校区生涯俱樂部清掃奉仕
- 四月十二日 香東大祭
- 四月十三日 神戸護國神社春大祭出向
- 四月十四日 加古川栗津園祭出向
- 四月十五日 兵庫縣神社庁役員会出向
- 四月十六日 木田伊和志津神社徳直正式参拜
- 四月十七日 じふ七会慰霊祭、和歌山県敬神婦人会参拜
- 四月十八日 奉敬奉賛会連発委員会
- 四月十九日 兵庫縣神社庁姫路支部お出進祭出向
- 四月二十日 兵庫縣神社庁・田支部総代会出向
- 四月二十一日 姫路總友会使用
- 四月二十二日 神社本庁役員会出向
- 四月二十三日 神社本庁表参式、祝賀会明治記念館出向
- 四月二十四日 神社本庁評議會出向
- 四月二十五日 神社本庁評議會・庁長会出向
- 四月二十六日 兵庫縣神社庁播磨支部総代会出向
- 四月二十七日 神戸町慰霊祭
- 四月二十八日 聯士の証言講演会
- 四月二十九日 大阪春日神社正式参拜・西本堂司祝賀会
- 四月三十日 兵庫縣神社庁監査・責任役員会出向
- 四月三十一日 伊勢神宮評議會出向
- 五月一日 兵庫縣神社庁初任神職研修講座
- 五月二日 佐用石井地区慰霊祭・日本会総講座
- 五月三日 池田鎮西諏訪大社宮司特祝賀会(長崎)
- 五月四日 聖友会清掃奉仕
- 五月五日 兵庫縣神社庁姫路支部支部研修
- 五月六日 兵庫縣神道五十年出向
- 五月七日 奉敬奉賛会連発委員会
- 五月八日 大政式
- 五月九日 波發町慰霊祭
- 五月十日 湊川神社例祭参列
- 五月十一日 兵庫縣神社庁合同協議会出向
- 五月十二日 日本会議兵庫縣会出向
- 五月十三日 神社監査会
- 五月十四日 兵庫縣神社庁協議会出向
- 五月十五日 奉敬奉賛会連発委員会
- 五月十六日 神社本庁役員会出向
- 五月十七日 日本会議講座
- 五月十八日 近畿護國神社社会出向大阪
- 五月十九日 宗教サミット国際会議場出向
- 五月二十日 英霊にこたえる会
- 五月二十一日 日本会議講座
- 五月二十二日 西播磨任研修社
- 五月二十三日 城賢老人会清掃奉仕
- 五月二十四日 淡路地区神社総代会出向
- 五月二十五日 英霊感謝祭
- 五月二十六日 兵庫縣神社庁役員会
- 五月二十七日 日本会議中西播磨支部総会
- 五月二十八日 全国聖友会淡路出向

## 明治維新百五十年の 平成三十年を 迎えるにあたって

護國神社のご祭神については明治のご維新と大きくかわりがあります。

来年は明治元年(一八六八年)より百五十年、兵庫縣姫路護國神社の祭祀が始まって百二十五年、現在の社殿が建立されて八十年の節目を迎えます。

日本で最古の歴史古事記序文には「稽古照今」という言葉が出てきます。いにしえに学んで将来の指針を見出すという意があります。節目の時こそ正しい歴史を振り返り、未来へつないでいかねばなりません。

明治から大正、昭和にかけては、明治維新の大義に基づき、靖國神社、湊川神社をはじめ、明治神宮、乃木神社、南洲神社、東郷神社、各地区の招魂社そして護國神社が設立されていきます。来年はその節目の年に当たり当社では次の事業を行います。

### 事業計画

- 一、祭典
  - 明治百五十年祭 十一月三日
  - ご創祀百二十五年ご鎮座八十年祭 十一月二日
- 二、顕彰事業
  - 明治のご祭神及び日清日露戦争の研究
  - 市内の縁ある地、施設の探検
  - 明治の精神講演会
  - 明治維新の原動力となった楠木正成精神の講演会
  - 第十師団の顕彰
- 三、整備事業
  - 昭和天皇胸札の整備
  - 境内・神社森林の整備(こいの場所の設置)
  - 社殿・社務所・官舎など建物の改修

### 総予算 五千万円

事業期間 平成三十年～三十一年  
募金期間 平成二十九年～三十一年

## 臨時奉仕者募集のお知らせ

誠実で明るい方お待ちしております

### 【募集資格】

- 十八歳～二十五歳 未婚の女性
- 高校生不可
- ※髪の毛の染色不可
- ※男性の方も若干名募集しております

年末一日間以上、一月一・二・三日に奉仕頂ける方  
たくさん奉仕頂ける方を優先し採用致します。

### 【奉仕期間】

- 〈七五三〉 十一月中の土・日・祝日
- 〈年末〉 十二月二十五日～二十八日  
午前九時～午後五時
- 〈大晦日〉 十二月三十一日  
午後十一時～午前九時 ※二十歳以上
- 〈年始〉 一月一日～一月十日  
午前八時～午後八時 ※うち八時間交代制

### 【奉仕内容】

- 〈七五三〉ご祈禱受付・奉仕
- 〈年末・年始〉清掃、迎春準備、お守り、おみくじ授与

### 【申込み方法】

メールにて名前・住所・電話番号・年齢・通話可能な時間帯(午後五時まで)を明記の上、左記メールアドレスまでお送りください。こちらからご連絡致します。

okoku.miko@gmail.com

### 【申込み締切】

十一月月上旬まで随時募集  
※定員に達し次第終了

